



昭和信用金庫の
現況

2024

令和5年度 事業のご報告
(令和5年4月1日～令和6年3月31日)



昭和信用金庫は91年前

有限責任昭和信用組合として設立されました。

昭和金融恐慌に起因する不況によりようやく曙光が差し、経済復興が進展し始めていた時期です。

しかし、長年の不況の痛手を受け、資金難にあえぎ、復興の波に乗れない多くの中小商工業者がいました。

当金庫は、地元商工業者がその窮状を脱するため、

「相互扶助」「共存共栄」を目的とした金融機関として、地元の皆さまによって設立されました。

日本経済はいま

新型コロナウイルス感染症により、

日本経済は未曾有の危機に陥りました。

現在はアフターコロナへの転換に伴い、

経済正常化への期待が高まっています。

しかし、従来の人手不足や事業承継の問題に加え、大幅な物価の上昇など、

中小企業はさらに厳しい課題に直面しています。

昭和信用金庫は、あらためて「お客さまの役に立つ」の実現を掲げ、

「地域になくてはならない金融機関」を目指し、

地域の活性化に取り組む使命を果たします。



昭和信用金庫「SDGs宣言」

当金庫は、令和4年6月に「SDGs宣言」を策定しています。創業の理念である「相互扶助」「共存共栄」の精神は「SDGs」と多くの共通点があり、当金庫は長年にわたりSDGsと関連のある活動を展開してきています。

当金庫では、「SDGs」達成に向け、次の取組みを推進しています。

1. 持続可能な地域経済の発展への取組み
2. 持続可能な地域社会の発展への取組み
3. 環境保全への取組み
4. 人材育成と働きがい向上の取組み

SDGs:2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中に掲げられている17の「持続可能な開発目標(ゴール)」のことです。世界全体の「経済」「社会」および「環境」の三側面を、不可分のものとして調和させ、誰一人取り残すことなく、貧困・格差の撲滅等、持続可能な世界を実現するため、統合的に取り組もうとするもので、国際社会の普遍的な目標として位置付けられています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



経営理念

昭和信用金庫は、創業の理念である
「相互扶助」「共存共栄」の精神のもと、
第一に、お取引先のご繁栄を願い誠意を尽くします。
第二に、地域社会の発展に貢献いたします。
第三に、調和のある健全経営を目指します。

金庫の基本方針

国民大衆の皆さまから、常に親しまれる金融機関として、
地域経済の発展に貢献することを念願として、

1. お客さまに親切に利益と繁栄を
2. 健全かつ積極的な経営を
3. 金庫に働くものに明朗な職場と安定した待遇を
モットーとして業務を推進する。

長期経営戦略のビジョン（平成27年度～）

お客さまとのFace to Faceによるリレーションを強化し、経営
理念の下、顧客の課題解決に向けて情熱を持ち一緒に
なって考えることができる信用金庫人を長期的に育成し、
身近な相談相手として寄り添える「地域になくてはならない
金融機関」を目指す。

中期経営計画 （令和6年度～8年度）

『お客さまの役に立つ』 を実現する組織変革の取組み

目標

『お客さまの役に立つ』を実現する組織変革の取組み
をテーマとし、各部・各店・各役職員が責任感をもって
それぞれの役割を果たすことで計画の実現を目指す。

戦略目標

1. お客さまの役に立つ。

「お客さまの役に立つ」を行動原則とし、
「お客さまとの長期的な関係」を構築する。

2. 経営の持続可能性を向上させる。

「収益」と「リスクテイク」のバランスを図り、
経営の持続可能性を向上させる。

3. 経営戦略実現のための態勢を整備する。

本中期経営計画達成にむけ最適な態勢を構築する。

4. 人材育成と企業文化変革に取り組む。

「人材育成」を最重要課題と位置付け、
「職員の成長」と「働きがいの向上」の相乗効果により
「社会的役割の発揮」を実現する。

目次

皆さまへのメッセージ	3
大好きな街応援します	5
■金融円滑化への取組み	5
■創業・新事業支援への取組み	6
■お客さまの経営課題解決の支援	7
■お客さまとともに	9
■地域社会とともに	10
■働きやすい職場づくり	11
■あゆみ	12
令和5年度の業績	13
内部管理態勢	15
■リスク管理	15
■コンプライアンス（法令等遵守）	17
■マネー・ローンダリングおよび テロ資金供与等の防止への取組み	17
■お客さま保護の方針と態勢	18
■「経営者保証に関する取組方針」および 「経営者保証に関するガイドライン」への 取組状況	20
総代会制度	21
経営組織	23
営業のご案内	25
計数資料	28
開示項目一覧	53
店舗ネットワーク	54

- 本誌は、信用金庫法第89条（銀行法第21条準用）に基づいて作成した
ディスクロージャー資料です。
- 記載している計数は、金額は単位未満を、%は小数点第3位を切捨てて
表示しています。

昭和信用金庫の概要

創 立：昭和7年12月17日
純 資 産：246億5,870万円
出 資 金：12億4,560万円
会 員 数：21,863名
本店所在地：世田谷区北沢1丁目38番14号
預 金：4,651億3,842万円
貸 出 金：2,182億5,223万円
店 舗 数：本支店19店舗、店外ATMコーナー2か所
役職員数：276名
営業地区：東京都23区、調布市、三鷹市、狛江市、
国立市、日野市、府中市、稲城市、武蔵野市、
多摩市、西東京市、小金井市、国分寺市、
小平市、立川市、東久留米市、
および神奈川県川崎市多摩区・麻生区

（令和6年3月31日現在）

はじめに

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、令和5年度の経営内容や事業活動をご報告する『昭和信用金庫の現況2024』を作成いたしました。是非お読みいただき、当金庫への一層のご理解をいただければ幸甚です。

当金庫を取り巻く経営環境

日本経済に大きな影響を与えてきたコロナ禍は、ようやく収束の気配を見せております。一方で、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻やパレスチナのガザ地区における混乱は、依然として解決に向かう様子がなく、日本経済にも大きな影響を与えております。大幅な円安などに伴う物価上昇、実質賃金の減少などにより、個人消費が低迷しており、依然として日本経済の先行きは不透明なものとなっています。

また、金融機関を取り巻く環境は、コロナ禍における資金需要の一股感が存在することから、貸出金の推進において向かい風となっています。また、企業の倒産件数は、高水準で推移しており、信用コストの発生も見込まれるため、厳しい経営環境が続くことが予想されます。

このような状況下ではありますが、信用金庫は、地域経済を支えるインフラとしての役割を担っており、その機能を継続的に発揮していくため、引続き収益基盤の強化に努めてまいります。

令和5年度の業績

令和5年度の業績につきましては、預金残高が4,651億円と前期比36億円の増加、貸出金残高は2,182億円と前期比14億円の増加となりました。収益面では、営業エリア内の再開発等による活発な資金需要により、融資残高が伸長したことから、資金運用収益が増加しましたが、有価証券の売買による収益が減少したことなどにより、経常収益は減益となりました。また、令和4年度は、不動産の売却に伴う一過性の利益が発生していたことにより、当期純利益も減益となっています。

新・中期経営計画を策定

当金庫では、令和3年度から3か年の中期経営計画「お客さまの役に立つ～新たな社会環境における『変わらぬお客さまとの長期的な関係構築』への取組み」を掲げて活動してまいりました。この結果、貸出金の増加につながるなど、一定の成果を残すことができました。

令和6年度からは、新・中期経営計画「『お客さまの役に立つ』を実現する組織変革の取組み」を掲げ、従来からの理念を踏襲したうえで、より高いレベルで「お客さまの役に立つ」を実現していけるよう、組織変革・人材育成に取り組んでまいります。

展望

当金庫三軒茶屋支店が令和6年5月に建替えに伴って新築オープンしました。同ビルには自治体の施設も入居し、皆さまにご利用いただいています。7月には上北沢支店の新築オープンも控えており、福祉施設が入居する予定となっております。これを機に、自治体や地域の課題解決のために活動する方々との連携を深め、創業の理念である「相互扶助」「共存共栄」の精神のもと、地域の活性化に貢献してまいります。



令和6年7月 理事長

寄元 正則